



つばい かよちゃん
(4さい)

いちごの ドーナツが だいすき。ドーナツやさんになって まつちやとか いちごとか いろいろなあじの ドーナツをつくるの。みんな きてね。



奥春別荘の保育園のおともだち



はやし ゆうとくん
(5さい)

オリンピックで スノーボードをみて わくわくしたよ。カッコいい スノーボードの せんしゅになりたいな。じぶんのボードも もってるんだ。

がんばっているあなたがすき

シリーズ・ひと

地球観を持つための一つの資料になれば

環境問題をテーマに撮影を行う自然写真家

水越 武さん(71歳・屈斜路)



アフリカや南米などの、通常は人が踏み入れないようなジャングルや高山にあえて赴き、その様子をカメラに収める水越さん。土門拳賞や芸術選奨をはじめ受賞歴も数多く、世界をまたに掛けて活躍する水越さんですが、その原点はどこにあるのでしょうか。

「初めて自分のカメラを買ったのが27歳のとき。幼少のころから大好きだった自然をテーマに、写真家としての道を歩き始めました。長いこと自然を相手に仕事をしていく中で、環境問題を抜きにしていることに後ろめたさを感じるようになったんです。自然保護の組織などに所属して、いろいろな取り組みも行っていますが、写真家である自分が環境問題に向き合うとしたら、地球規模で考えていくことだと思っただけです。

環境問題として、近年よくいわれる地球温暖化。温暖化や環境汚染の実態を、視覚的なところでとらえたいというところに行き着きます。

「環境を考えたり守ったりしていくとき、個人の力ももちろん大切ですが、たくさんの方がそういった意識を持つことが必要だと思います。よく自然観といいますが、さらに踏み込んで、その中に地球観を組み込んでいかなければならない時代が来た。その地球観を持つための一つの資料に、わたしの写真がなれたらと思います。それで、約1世紀前に撮影された水河が、現在どれだけ変化したかを撮りました。

当時の写真と比較すると、水河が消えたり、少なくなったりしているのが一目瞭然(りようぜん)です。

「温暖化はよくない」と一言で言いますが、地球は今までに、氷に包まれたり暖かくなったりを繰り返しています。温暖化も、自然現象として起こるものは問題ないと思いますが、現在は問題だと思っています。急激な変化には生物もついていけない。生態系にも影響が出るからです。写真を見た人の中に、そういった危機感を喚起するきっかけになりたい。

こうした姿勢は、水越さんの生活すべてに現れているようです。水越さんの今後は。

「最先端を追いかけていくのではなく、無駄をそぎ落としてシンプルに、そして好きな世界を撮影していきたいと思っています。国際的な視野を持って地方に暮らし、自分の時間を持ち、地方文化の多様化に貢献できたらと思っています。

弟子屈ソシアルダンスクラブは、1976(昭和51)年に設立された、社交ダンスのサークルです。現在も会員に社交ダンスを指導する渡辺幾雄先生(全日本ホールルームダンス連盟北海道支部地域指導員)が設立者で、会員13人でスタート。



弟子屈ソシアルダンスクラブの皆さん
後列右端が代表の林さん

ト。以来30年以上にわたり、活動を続けてきました。設立当時から会員は勝山源三さんと木下和子さんで「この2人が会の中心となって活躍してきた功労者です」と、代表の林さんは話します。現在は、標茶町から通ってきている会員もいるとのこと。

「一時は30人以上の会員がいたという弟子屈ソシアルダンスクラブ。長い活動の間に、ダンスインストラクターや、日本アマチュアダンス技術検定の合格者を多数輩出しているとのこと。」

基本は楽しく、健康のためにがモットー。毎週金曜日の19時30分から、公民館で練習しています。日ごろの練習の成果の発表と、会員以外の皆さんとの交流の場として、4月にはスプリングパーティー、秋には町の総合文化祭において「町民ダンスの夕べ」を開催しています。この年に2回のダンスパーティーには、釧路管内各地から、たくさんの方が参加してくださるそうです。どなたでも参加できるこのことですから、一度行ってみませんか？

We are enjoying !!
サークル
おじゃまします!

弟子屈ソシアルダンスクラブ

代表・林 弘子 さん
会員・15人



練習の様子

「ダンスは結構な運動量です。練習中は汗ばみ、息も上がりますが、翌日は体の調子がとてもいいです」と林さん。老若男女、経験問わず(初心者大歓迎)、新しい会員を募集中のことです。興味のある方は、林さん ☎482-23302 まで、お気軽にお問い合わせください。